

交叉点24

明高24回生通信

20th/Feb. / 2016

「師、平畑政幸先生」

小池孝良（8組）

先生は、2015年11月21日にあちらの世界へ旅立たれました。1928年、広島県のご出身です。兵庫県下の明石高校をはじめ4高に勤務、姫路の大学などで教鞭を執られるとともに、長らく兵庫県生物学会の活動を支えて来られました。明高では1年時の生物をお教えいただき、進路の相談では、実に的確な助言を賜りました。学力不足でかなわなかった植物分類学への道は、「よくぞ、失敗した」

と、先生のお言葉に日々感謝しています。そして、父を除く教員の家庭に育ったため深く考えることなく教育実習にお世話になりましたが、その時のお言葉にも救われました。自らが人生を語るのは、まだまだ、ですが、平畑先生との思い出を辿り、先生の”道中”の慰みにできればと願います。

先生とのご縁は、実は明高の前、神出中学時代にあります。中学2年生のころ、生家の红柿“太郎助柿”の果実にできる年輪状の文様の理由を、当時、生物学会会長であり、中学時代の理科と数学の恩師、旧姓・中村日出栄先生から室井綽先生をご紹介いただいたことがきっかけでした。室井先生はタケ・ササの著名な研究者で、続く岡村はた先生らとともに、我々を導かれました。その中に、平畑先生もおられたのです。

一番の思い出は、教育実習の時でした。「君らは最新の勉強をしているはずだから、DNAの複製を実習のテーマにして欲しいと言われたのです。しかし、教養で習った程度でし

たので困りました。しかも後に専門にすることになる分野は生態学（環境と生物の生活の科学）の一部でした。おまけに1年生で生物が講じられているため、最低、化学の知識がないと難しいと感じました。そこで、「DNAの発見の歴史とワトソン・クリックの発見の基礎となった、X線回折格子を撮影したロザリンド・フランクリンの研究を紹介したい」と申ししたところ、「わかりやすく紹介して欲しい」と言っていただきました。

実は、進路相談の時に、将来、植物学科へ進むなら「生物ではなく物理・化学をしっかりと勉強しなさい」と言われました。得意の生物から、小学校での「振り子実験」の解答を間違えて以来、苦手意識のある物理への変更は、それでも押原先生の名講義のお陰で、多少は得意になっていましたが、かなり不安はありました。平畑先生のお言葉はここに現れました。そこで、ACGTの暗唱と、この4つの塩基が間違わずに複製される理屈を当時出たてのオーバーヘッドプロジェクター（OHP）用に「模型」を作成して講義に臨みました。お陰で生徒さんには受け入れられたようでした。

教師の仕事の本質は、「生物がおもしろいので1名でも多くの生徒さんにそのことを伝えたい」と言うのは、実に甘い考えであり、実習1週間目に「生徒指導」であることに気づき逃げ出したい衝動に駆られました。不謹慎ですが、「教師の道はあきらめようかと思う」と申したら、「実習に来たからといって、皆が教員に成るわけではないよ!」とっていただき救われました。そして、先輩の吉田先生のご尽力で、2008年に明高へ呼んでいた

だいたいの時にお会いし、「小池さんのあれ（OHPの図）ね、つなぎ目はセロテープを交換して、長年使わせて貰ったよ!」と言っていたいただきました。有り難すぎるお言葉です。



次に、兵庫県生物学会の研修会が三木山で開催されたときに、話題提供をさせていただきました。もう10年以上前になります。同期の上根さんも、その話題を聞いて下さいました。「高CO₂環境での樹木と植食性昆虫の応答」です。奇しくも会長の武田義明先生は、中学校以来お世話になってきた中西哲先生の後継者でした。これも平畑先生のお導きでした。2002年には明石城公園を舞台に記された「明石公園：花と樹のウォッチング」（神戸新聞総合出版センター）は、座右にあって、疲れたときなどに開いて故郷を懐かしんでいます（写真左）。2008年には、「兵庫の自然今昔：兵庫県生物学会60周年記念誌」を編集され、続く65年記念誌への基礎を確実に築かれました。お会いしたときの忙中閑記とでも申しませうか、楽しそうなお姿は今も写真のように手元にある、私を励まして下さいます（写真右）。

平畑先生の生物の授業は、正直、あまり覚えていないのです（大切な時期に体をこわして休学し、寝ていました。英語と数学は赤点でしたので、とにかく留年しないように、ともがいていて、生物はきつとおろそかだった

ように思います）。でも、私は、先生の生物学に向かう楽しそうなお姿に、あるべき教員と申しますか、生物学徒の姿を見せていただいたのかと思います。その足跡を懐かしく、また、大切に思っております。合掌。

「近況報告、高校の頃の思い出」

加賀谷 弘美

明石高校24期生のみなさま、お元気ですか。3年10組中村先生のクラスにいました。生物部クラブの部長でした加賀谷 弘美と申します。昨年8月18日、旧3年8組の長谷川和弘さん逝去の知らせが奥様より有り、その報告を同窓会お世話人の河合 昭彦さんに、連絡したのがきっかけで、同窓会誌の原稿依頼をいただきました。長谷川さんは明石銀座長谷川時計店のご子息でした。4年前、同学年生物部の同窓会でお会いした時はお元気そうでしたが、突然の心臓の具合が悪くなったの逝去との事。友人の突然の訃報は寂しい限りです。いつも今でも気持ちは当時のまま18才の私ではありますが、私達はそんな年代になっているのかと実感しました。思えば、'72年卒業、あれから、もう44年も経つ。月日の流れを感じます。みなさまご自愛くださいませ。

さて、ここから本題に入って、近況報告、高校の頃の思い出、拙い文章ながら書かせて頂きます。さあ何から書こうか。まずは近況報告から、

私はというと高校卒業後、九州福岡にある某デザイン系の大学に進学、工芸デザイン専攻、卒業後、京都の和装会社に就職し着物職人をしていました。バブル全盛期を経て、その後地域情報誌の企画営業に転職、今は色んな仕事やっています。京都山科にて、絵を描いた

りギターを弾いたり合間に仕事して、日々元気に過ごしています。

高校時代はとても人見知りで、内省的で、クラスでは、あまり目立たない生徒でした。校内敷地の南西にあった図書館で本を借りてはよく読んでいました。絵を描いたり、音楽を聴くのが大好きで、ギターを弾き始めたのもこの頃だったかな。一番本を良く読んでいた時代かも知れないな。担任の中村先生がまだ御存命だった頃、同窓会でお会いして、『おお、加賀谷か！ 相変わらずおっとりしてあまり変わってないなあ。』とお声掛けいただいたのがとても嬉しかった。歳月は重ねて、それなりに生きてく術（すべ）は身に付けたけれど、『こころ』って歳を取らないって最近気付きました。ひょっとしたら幼稚園のころから変わってないのかも知れない。

高校時代は、あまり出来のいい生徒ではなかったけれど先生方より教えて頂いた知識はその当時よりも後になって鮮明に思い出す事が多くて、今更ながら身に付いてるなあ実感する事があります。（只、役に立ちそうもない下らない事はよく憶えている。）

1. 生物部クラブ活動 放課後はクラブ活動で、明石公園にプラナリアの採集、高校近くのため池や明石港に魚釣りによく行っていた。文化祭に植物にも意識があって人の言葉に反応する装置を展示した。（サボテンに電極を繋げて話しかけると、反応にあわせて電流計が揺れ動く。かなりインチキくさい。）

2. ホームルームのレコード鑑賞で聴いたバナナ・ファッジの『キープ・ミー・ハンギング・オン』がロック初体験だった。

3. 夏休み春休み前の映画鑑賞会で観たマーク・レスター主演の『野を駆ける白い馬のように』が洋画初体験だった。これがきっかけで、今でも大好きな映画『小さな恋のメロディ』を知った。

4. 体育祭で、『ノックは三回』 Knock Three Times／Dawn（'70年の全米全英1位）に合わせてのダンス演技があった。ダンスミュージック初体験。

5. 英語夏休み副読本『ヒューマンコメディ』ウィリアム・サローヤン、アメリカ文学との出逢いのきっかけとなった。『人に愛され人から愛される人こそ本当に幸せな人なのかも知れませんね。』っていう感想を書いて楞野先生に『私も同感です。』って共感の評価を頂いた。この頃サリンジャー ブラッドベリを読んでいた。

6. 滑川先生 某大学哲学科卒の倫理社会の先生 廊下ですれ違う時挨拶をすると私の思索の邪魔をしないで下さいと怒られるという伝説があった。

高校時代、唯一テストで100点満点を頂いた。大好きな先生だった。一字一句書き留めた講義ノート今でも持っている。

7. 東道先生 初めて高校英語の授業を受けた先生 一番最初の授業『先週シカゴへ行って風邪を引いた』、はい！英語で何て言うか。前から順に当てていって答えられなかった。今なら何とか答えられるかな。 I went to Chicago and caught a cold last week. かな。 Chicago gave me cold last week, というオシヤレな言い方もあるんだよって、この時憶えた。

8. 理系の8、9、10組は途中で増築したのか、校舎通路がズレて折れて繋がっていません。8組は何人か女子がいたが、9組10組は男子ばかりで、理系進学組の10組は男子ばかりで校舎棟の最西端にあった。生物部の女子部員がたまに連絡に来ると注目されて恥ずかしそうに帰って行く。後日『それは恥ずかしいんじゃない、嫌だったのよ…。』と、言っていたらしい。ええ～！

9. 平畑先生 生物部の顧問 夏休み引越しの手伝いに行ってカレーライスを頂いた。校内の植木の世話を手伝って植木の植え替え移動お手伝いしたりした。校内でセミ取りしていると、息子さんにセミは7年間土の中にいて地上に出てくるんだよ。出てきて一週間しか生きられないんだ。すぐ逃がしてあげてよって怒られた。植木や草花の手入れに夢中で授業あるのを忘れてたこともあったが、結構可愛がって頂いた。

10。石田先生 2年生の時、着任された新任の美術の先生 課題で木板を張り合わせて木塊にし、それを削り出して靴(くつ)を作る。工芸加工を初めて体験した。アルファベット部分が抜き差し出来る立方体キューブを、厚紙だけで作るペーパークラフト課題なんてのもあった。モノを作るの大好きなのは、この体験からかも知れない。

11. 押原先生 物理の先生 研究者には2通りある。一つは自分で今までになかった新しい事を発見発明する天才的な人。もう一つは既存の記録を体系立てて整理して新たな概念を構築する秀才タイプの人って言葉を憶えている。

以上思い出すままに書き留めました。まだいっぱいあるなあ。書けなかった先生ごめんなさい。あの先生書いてないよ、ってお声あると思いますが、またの機会に思い出してまた書きます。すみません。卒業後44年の月日の中で思い出す。それは確かにあった懐かしくもあり恥ずかしくもある青春期を過ごした3年間。いい事も悪い事もすべて含め、今の自分がある糧となる3年間でした。直接お話する事無くとも、私の事を憶えてる方も初めて知った方も、今後ともよろしくお願いします。みなさまのご多幸と御健康を心よりお祈りします。いつも『今を生きていたい』です。同窓会でお会いしましょう。みなさま、いつまでもお元気でいて下さい。

「なんと62歳ですね」

吉田(小林) 蘭子

今回初めて原稿の依頼を頂き、本当に困惑しています。毎回 皆様の御活躍振りを、流暢な文章に感心しながら拝見させていただいていました。ところが私には題材がない!と狼狽しています。・・・でも私のことなどご記憶にない方が殆どだ・・・と思うと、少し気が楽になり覚悟いたしました。

まず、前回の還暦と銘打った同窓会に出席出来なかったことの胸中をお話しします。殆ど毎回出席しておりましたのに、息子夫婦の事業の立ち上げと、私の体調不良が重なってしまいました。節目の同窓会なのに、本当に残念でした。私の体調不良は所謂、自律神経失調症です。50代から始まり、正に其の時がピークでした。なんと運の悪い事かと・・・その後誕生日を迎える頃から少しずつ改善し、今は<こんな日もあるさ>と捉え少しでもアグレッシブに生きようと思っています。娘の一言、「お母さん、今やりたい事を先に延ばしてたら 来年はもっとハードル高くなるよ」でした。背中を押された感じです。正に老いては子に～ですね。「家族を第一に、自分のことは後回しにから、「自分を少し中心」に据える生き方に修正中です。

まず気分を明るくと、私の車をくもろろん軽です>ちょっと派手なピンク系ゴールドカラーに替えました。車内も可愛いくクッションや小物で飾り、これだけでも、お買い物もウキウキ気分になれます。更に新しいカーナビの親切なこと!方向音痴の私には なんと懇切丁寧なナビさまです。お陰で少しテリトリーも広がりました。ナンバーは勿論<60>無事故、無病の願いも込めています。70過ぎ

～位までは運転できればいいなと思っています。

そして40年来続けているピアノ教室なのですが、体調の事もあり60才で辞めようと考えていました。が、こんな私でも需要のある限り（笑）又責任を持ってできる間は続けようと、週2日だけと決め、継続しています。今は生徒さんも5歳から小6までなので、楽しくやっています。

次にガラケーからスマホに替えました。メカ音痴の私は一部の機能しか活用できていませんが、これはとても重宝しています。特に息子と嫁が初孫の写真や動画を毎日のように送信してくれるので本当に楽しみです。孫には「マータン」・・・grandmotherの略？・・・と呼ばせようと、必死な私です。皆にドンビキされましたが今では、ユルキャラみたいなネーミングで可愛いと思わせています。主人もすっかり、孫のことになると好々爺になり、会話も潤い孫は<鎧>となっています。

ついでに息子の結婚式の呆れたエピソードです。なんと主人<欠席>！！前日にインフルエンザに罹ってしまいました。東京へ単身赴任中で不摂生をしていたのでしょうか。疲れも知らない、風邪もひかない元気者なのに大切なその日に限って・・・帰省してきて、ちょっと風邪かも・・・と念のため病院に行くのと陽性反応！私達は無慈悲にも熱が出始めた主人を即！東京へ戻しました。これは私達まで感染して式場へウイルスを持ち込んでとの、賢明な判断だったと思います。主人は相当落ち込んでいましたが・・・急遽、式の最後のスピーチをすることになった私は、我が子初の結婚式の感動もソコソコに美味しいフレンチやワインも楽しめませんでした・・・。

これもついでに、私の初体験を書いてしまいます。2015年夏<福山マサハル>大阪ライブに行きました！今迄クラシック音楽やバレ

ーには何度も行きましたが、スタジアムライブのインパクトには圧倒されました。でも周りを見ると同年代？の方もタオルを振り回し元気イッパイ！なので少々安堵し、私も負けずに頑張っていました。その日は20才位は若い気分でした。まあ疲れは1週間続きましたが・・・。

それから秋から新しく習い事を始めました。宿題しなくちゃ～とか、「先生」と呼んでいる自分がちょっと新鮮です。5年程のんびりと続けているヨガも、そこで知り合った友人3人で励まし合って続けています。

以上、60才からの取るに足らない私の近況です。24歳で結婚し漫然と、いえ精一杯主婦業をして来た私にはこの程度しか書くことができます。でもこうして書かせて頂きながら、今改めて明高で知り合えた方々を初め、62年間で出会うことのできた方々との繋がりを大切にしたいと思っています。そして些細なことでも、誰かのお役に立てたり喜んで頂ける事の出来る自分で在りたいと思っています。

最後に卒業してからの長きに亘ってお世話をして下さる、河合さんご夫妻に本当に、心より感謝申し上げます。

では2016年の同窓会でお会い出来ることを楽しみにしております。皆様どうぞお元気でお過ごしください。

「うちの子たち」

白國優子

いったい彼らは何を見つめ何に耳を傾けているのか。猫とは神秘的は生き物である。そこに居るのに魂はそこにはないような。

私が彼に出会ったのは11年前の9月だった。手のひらサイズ程だった彼は鳴き疲れて声は嘎れ、下痢で爛れた肛門は自分の尻尾か触れても悲鳴をあげた。前日の夜、小学生くらいの男の子が何度も抱き上げて、下に置いて、また抱き上げて、そして彼は捨てられたらしい。まだ母親のお乳とぬくもりが必要だったにもかかわらず、痩せ細った子猫はダンボール箱の中に鰹ごはんと一緒に捨てられていた。抱き上げた時の彼は私の手に幾何の重みも残さず、冷えた身体とやたら大きな目が印象的だった。それでも私は彼が死ぬとは思わなかった。一日仕事場で看護師さんや薬剤師仲間が世話をしてくれて夜遅く我が家に連れ帰った。次の日、動物病院で「多分ダメだろう」と言われ、なぜ昨日仕事を休んですぐに医師に診せなかったのかと後悔した。生後3週間ほどで命がなくなる！そんなことはあってはならない。医者を変え、私たち家族と彼との生きるための戦いが何日も続いた。

彼の名前は藍。命は取り留めたものの、藍は水の飲み方、ごはんの食べ方などが下手で何度も脱水になった。そのたびに母に連れられて動物病院で点滴をしてもらった。藍はパンとコーヒーの匂いに反応し、欲しがった。その反応から、赤ちゃん猫が何を食べさせられていたのか容易に想像できる。今も私は藍を捨てた人間に対し完璧に怒っている。また、子供にそれをさせた親は自分の子供の心に残ったものに気付いているのだろうか。

藍は我が家の宝物になった。藍もそのことをよく知っている。しかし藍は自分の力をコントロールできず、私を何度も噛み、そのたびに8~11針の縫合が必要だった。私はいつも藍と一緒に眠り、かくれんぼをして遊び、猫用の総合栄養食について勉強し、水ではなく40度くらいのお湯を飲ませた。藍はフサフサとした茶色の長い直毛を背側に、とてつもなく柔らかいベージュのカール毛を腹側に持っている。

我が家に一匹の雌猫がごはんを食べに来るようになったのは藍が確か4歳の時だったと記憶している。その子はクーちゃんと呼ばれるようになり、毎日来た。6年前の5月の連休になんと、クーちゃんは5匹の子猫を連れてきて我が家の庭で育てた。母猫は子猫に水の飲み方、道路の渡り方、木登りを教え、たっぷりのお乳を飲ませた後は5匹を抱え込んでよく眠った。クーちゃんは一年に2回出産し育てては我が家に子供を置いていった。素晴らしい母親であり健康なクーちゃんが育てた子供たちのほとんどが（たまには生まれつき健康不安や精神的に弱虫がいるが）健康で賢い。結局クーちゃんの子供たち30匹が我が家の家族になり、4匹は知人にもらって頂き、26匹の子猫がうちの家で大きくなった。それに藍、迷い込んできた白猫のミルク、病気だったので保護したタマとクロ（この二人は逝ってしまったけど・・・）、最後に入ってきたクーちゃんが今の我が家の家族である。

その中でもかなり賢い女の子（名前はマミ）が生まれて初めての冬に「寒いよおー」といって飛び込んできて以来、藍はマミにいろいろなことを教えてもらい、今ではよく水を飲み、よく食べ、しっかりとしたウンチとたっぷりのおしっこをし、同室の他の子供たちにも慕われ一緒に走り回っている。私にベツタリだった藍を思い出すと少々複雑な気持ちである。

彼らの大切な命が今の我が家のエネルギーそのものである。彼らは貪らず、短時間の満足を繰り返す。私もそうありたい。それにしても、いったい彼らは何を見つめ何に耳を傾けているのか。

「懐かしい交流」

山西 順司

ご無沙汰しています。旧3年10組の山西です。とはいえ平成25年に24回生同窓会に出席しましたがお互いの風貌の変化に驚くばかりで名前だけではわからない方が多いと思います。たとえば自転車通学していた丸坊主頭の長身の田舎の男といえは少しは思い出してもらえるかもしれませんね。今でも時々会う機会のある河合君から原稿依頼があり10数年前に交叉点に書いたので今回は2回目の寄稿になります。

現在、幸いにも心身に大きな問題もなく還暦も過ぎ肩の力も抜けてややマンネリ気味の鬱困気で20年以上も神戸市西区の新興住宅地で開業医（内科）生活をしています。同じ場所で20年以上も転勤はなく職住隣接で生活するのは面白味はなく、刺激も少ないですが中高年の世代にはこれが平穏で良いのかもしれません。それでも職場の上が自宅ですから、プライバシーの制約や時間外の依頼もあり相当忍耐のいるもので家内のご機嫌が年々悪くなるのは当然のことかもしれません。とはいえ理由がそれだけでないことは皆様のご想像の通りです。数年前から子供は家から離れて生活しており普段は夫婦2人の生活です。子供の事で思案したり、追い立てられることもなく最近、毎日時間がゆっくり流れていることがとてもうれしく思えます。こういう感覚になったのは結婚して以来初めてで、自由な時間の多さにささやかな幸せを感じています。

私の両親は数年前に相次いで他界しましたので実家に寄ることはほとんどなくなり近所の人たちとの交流がめっきり減り寂しい気分です。私は三男ですから地域との繋がりは元々少なかったですので両親を通しての親戚や近所の方との付き合いの大きさを改めて思い知らされています。反対に妻は私の田舎との付き合いが減ったことをちょっぴり喜んでいるようで自分の両親への心配や気遣いを遠慮なくするようになりました。やはり親子

間での心のつながりはお互いに精神安定剤のような役目をするんだろうなと思ひ応援したい気持ちです。

所在地は地下鉄沿線の新興住宅地にありますが田舎にある母校の小中学校とはそう遠くはなく仕事で旧交を暖める機会がよくあります。同級生や子供のころからよく知っている近所の方々が来られることもよくあり少年の頃に想いをはせ懐かしい思いをしながら診療をやっています。失礼かもしれませんがこれもやや湿っぽい仕事にあって数少ない楽しみの一つです。こちらは仕事のつもりで真面目に接していても旧友はひょっとしたら雑談がてら、あるいは私の近況観察のためにやって来ているかもしれませんね。どちらであっても久しぶりに会うと会話が弾んでお互いに近況を聞くのは楽しいものですし。ご迷惑にならず、もしも少しでもお役に立っているのであれば嬉しい限りです。

こんな気持ちで仕事が出来ているのも初めは気が進みませんでした。が実家の近隣（故郷）で仕事をさせて貰っているお陰だなどつくづく思っています。

ところで20年以上もやっていると通われる患者さんも遠慮がなくなり何度となく「先生も老けましたな、やせ過ぎちがいますか？、始めた当時は若かったですのに」、こちらが風邪にかかると笑いながら「先生こそお大事にしてくださいね　ウフフッ」などと平気で言われてしまいます。定年がない仕事ではありますが引退は周囲から一方的に決められる立場ですから、気にしていないというウソになります。外観や服装にはやや無頓着なほうですが、そこまで言われるとさすがに気になりだして最近では家内の勧めでくれた美容院にしぶしぶ行くようになり、カリスマ？美容師のいいカモになっているようです。店の方だけには褒めていただけですが、元が元ですからその効果は怪しいものです。まったく

自信はありませんが、さらに私が老ける前に皆さんにお目にかかる機会が来ることを楽しみにしています。

「高松生活」について

藤本（吉澤） 博子

交差点 24 (28th/Feb./2015) の「還暦同窓会に寄せられた近況」の中に自分の名前があったので読んでみると、「もう少し高校生活を楽しみます。」と書いてありました。そういえば同窓会の案内の返信にコメントを書いた記憶はあったのですが、“高校生活”なんて書いた覚えはないんだけどなあ・・・と思ったものの、確認するすべもなく過ごしていたところ、河合氏から原稿の依頼の電話があったので、この交差点のことを話しました。当時の原稿を保管しているので早速確認してみるとのことで、当日の夜には電話があり、「高校」ではなく「高松」と書いていたことが判明しました。

ということで、「高松生活」のことを振り返ってみたいと思います。

税関と言えばどんな仕事をしていると思いますか？ 海外旅行された方は、空港で出入港の際に税関のブースを必ず通るので手荷物等の検査をされた方もあると思いますが、一般にはあまり知られていなくて、時々『税務署』と間違われることがあります。最近『T P P』や『違法薬物』などを耳にする機会が多くなりましたが、税関は輸入貨物にかかる関税や内国消費税の徴税及び貿易貨物の輸出入許可、薬物等の密輸入の取り締まりや犯則調査などを行っています。私は高校を卒業してすぐに神戸税関に就職し、三宮の本関まで毎日自宅から通勤しています。本関の他に出張所があり、また、兵庫県と山口県を除く中

国及び四国に 15 支署とその下に 14 出張所及び 2 監視署があります。

私が就職した当時は、男性職員が 9 割以上と圧倒的に多く、採用後すぐに東京で 9 ヶ月間の研修を受け、戻ってからは取り締まり等の業務に就き、転勤もあります。女性には研修の機会はなく、転勤を希望しても「女性はダメ！」と却下されました。

育児制度がなく出産を機に退職する女性が多かった時代ですが、私は出産を機に私の親と同居したので仕事を続けてこられました。

(ただし、主婦業と母親業は半人前ぐらいかな・・・) その後、女性職員の割合が増加してくると、「女性だから転勤しないのは不公平だ。」と言われ、子育てや介護しながら働いている女性も、転勤させられるようになってきました。その頃には高齢となった両親の世話が必要になっていましたが、同じ税関に勤務している夫が 3 回単身赴任したおかげ(?) か、転勤はしませんでした。

私の両親は、平成 17 年と平成 20 年に亡くなり、主人の定年退職後に転勤の話があったので、若い時に叶わなかった一人暮らしの夢が実現できるチャンスだと思いました。それで、平成 22 年 7 月～平成 25 年 6 月の 3 年間、坂出税関支署高松出張所長として単身赴任しました。

今まで明石と神戸にしか住んだことがなかったのですが、私にとっては、山は「北」、海は「南」と決まっていました。旅行で香住方面に行った時は、「日本海だ～」と感じ、海が北側に見えることに違和感はなかったのですが、高松に引っ越して一番の変化は、日常生活で今までと同じような瀬戸内海が見えるのに、それが「北」なのです。月に 1～2 度実家に戻っていましたが、明石海峡大橋を渡る度に瀬戸内海が「北」になったり、「南」になったりするので、まるで方向音痴になったようでした。

香川県と言えば「うどん県」ですが、県内にはうどん店が800軒以上あるようで、そのうち100軒くらいは行ったかな……。特に、製麺所で食べるうどんが安くて(140円～)おいしかったですね。

転勤した出張所の建物は老朽化しており、補修する予算がついたところでしたが、少し離れたところの合同庁舎に移転する案が出てきました。将来的なことを考えた結果、合同庁舎の改築・移転にかかる費用の見積もり、各関係機関との調整、翌年1月末までに税関業務システムにかかる工事が終わられるか、当初を上回る予算が認められるか等々の問題がありましたが、最終的に移転に決まり、1月30日(日)に引っ越ししました。とりあえず翌月曜日からの業務には間に合いましたが、事務室以外の会議室、書庫、更衣室等の工事が全て完了したのは3月でした。

この移転騒動の同じ時期に、中国格安航空会社の春秋航空が高松空港に乗り入れるとの新聞記事が出ました。高松空港の国際線は、週3便の韓国アジアナ航空(大半が日本人旅客)だけでしたので、格安ツアーで来る中国人旅行者の情報を得るため、すでに春秋航空が就航していた茨城空港へ2月に出張し、やっと業務体制の準備も整い、香川県からも就航記念式典の案内が届いた翌日にあの東日本大地震が発生したのです。テレビに映る茨城空港の天井の落下や数日前に視察した海岸の景色の変貌に実際の出来事とは信じられませんでした。その震災の影響で、春秋航空の就航は白紙になってしまいました。その後、7月から週2便で就航が始まり、翌年に週3便、4便となり、また、台湾のチャイナエアラインもチャーター便の実績を踏まえて週2便が就航し、私が赴任した時に1路線・週3便だった国際線が、約2年の間に3路線・週9便となりました。これらの増便に伴い空港ビルが増改築されることになり、同ビル内にある税関事務室も移転することになりました。

神戸税関で空港出張所があるのは広島空港と岡山空港だけですが、高松出張所は、高松空港も管轄しているので、国際線が入出機する時だけ空港の勤務があります。日曜日には3路線の入出機があるので、私も月に1～2回は日曜出勤して税関ブースに立つという貴重な経験をしました。この他に関税局担当の審議官の視察などもあり、忙しく大変なことも多い3年間でした。

高松での単身赴任も残り数か月となり仕事も落ち着いていたので、神戸に戻るまでに直島や男木島・女木島などにも行ってみたいと思っていました。そんな時に届いたのが前回の同窓会の案内だったので、近況報告に「もう少し高松生活を楽しまます」と書いていたのです。

42年間勤め、平成25年3月31日に定年退職し、引き続き再任用で週3日(月～水)仕事を続けています。このまま再任用を継続することもできるのですが、今年(平成28年)3月で終わるつもりです。それからは毎日が日曜日になるので、健康第一で第二の人生を楽しむつもりです。一年がだんだん早く感じられるので、元気なうちに旅行したり、何か趣味を見つけて健康寿命を延ばしたいと思っています。何かお薦めのものや情報があれば、ぜひ教えてください。では、次回同窓会で、元気に皆さまとお会いするのを楽しみにしています。

事務局からのご連絡

「2016年同期会のお知らせ」

谷口一彦代表幹事、伊与田賀弘幹事、高月孝之幹事の三校長トリオで企画中です。ご期待ください。

・住所不明者

1組 坂本隆彦 村瀬繁樹 八木義孝 定成幸子 泉

谷恵子 松尾洋子

- 2組 安藤悦郎 竹村郁子 長谷香代子
3組 北田雅福 高橋英樹 高見訓司 土島日出彦
増子 隆 藤永みどり 秋定和子 平野由
美子 鈴木佳子
4組 奥野好隆 田村政一 仲井 透 内田志津子
大泉尚子 山口哉子
5組 大村直樹 酒井一夫 佐藤市朗 長谷川俊広
山本和彦 魚住篤子 坂本嘉代子 中川ゆ
かり 平山登志子 松末純子（6組？）
6組 馬場滋夫 西馬慎三 加藤明江 倉橋正子
田中亮子 米谷嘉子
7組 足立真知子 近藤恵子 坂本京子 佐藤美智
子 富岡るみ 森江真岐子 盛井雅子 山
本寿子
8組 諸岡宗司 山崎清孝 庄司真弓 田中英子
9組 魚住一裕 魚谷雅弘 加藤和宏 三浪晴生
安井潤
10組 楞野博史 木下孝一 黒田幸雄 西森正二
久山哲広 藤田嘉治 安尾弘文 山崎栄造
2016年2月現在（敬称略）

心当たりの方がおられましたら、下記までご連絡ください。名簿の管理は、手作業で行っております。ミスはご連絡ください。

《連絡先》事務局 河合昭彦
〒674-0051 明石市大久保町大窪 1000-1
Tel 090-8659-5628 Fax 078-934-1667
メール kawai@dokikai.net

注) 河合に連絡いただいた住所はサラトに連絡しますが、サラトに連絡された住所は河合には届きません。

・24回生のSNSのご案内

明高24回生のSNSを立ち上げています。
<http://sns.prtls.jp/meiko24/home.html>

このURLを開いていただき、「新規登録」をクリックいただくと「ユーザ登録」画面が出ます。登録されますとご参加いただけます。

・メールアドレスをお知らせください

携帯、PCを問いません。

頂戴したメールアドレスは、同期会の連絡用にのみ使います。下記のアドレスにメールを送っていただければ登録します。

携帯の機種変更、転退職、転居等でメールアドレスを変更された方もよろしくお願いたします。

m24@dokikai.net



*QRコードです。携帯でのご連絡にご利用下さい。（機種によっては使えません）

*携帯・スマホをご利用の方

meiko24@dokikai.net

からのメールを受信可能にして頂けると同期会のメルマガが受信できます。

訃報

2015年8月19日に旧8組の長谷川和宏さんが逝去されました。慎んでご冥福を祈念いたします。

編集後記

皆様、原稿は常に募集中です。

引越された、転勤された、お孫様の話題等々、なんでも結構です。

通常の段取りとしては、毎年、11月一杯を目途に集めた原稿を中村（守）がデザイン、大西（和）と私で印刷、2月の理事会でサラトさんに渡します。

11月中くらいまでに、メールもしくは郵送にて原稿を河合にいただければ掲載できます。